

## NEWS RELEASE

2018-03

2018. 5. 17

「洛西口～桂駅間プロジェクト」において高架下エリアの名称を  
トート  
「TauT 阪急洛西口」に決定しました  
～ 本年秋には第1期エリア（洛西口駅付近）が先行開業します ～



洛西口駅東側から見た施設の外観イメージ

阪急電鉄では、阪急京都線・洛西口駅付近の連続立体交差化事業（鉄道高架化）により生み出された、高架下の空間（総延長約1 km、面積約11,200㎡）の活用方について、2015年から京都市とともに「洛西口～桂駅間プロジェクト」を立ち上げ、検討を進めてきています。具体的には、当社と京都市、そして地域住民の皆様が一体となって、西京区エリアにおける地域の活性化に取り組み、ワークショップを開催するなど活発な議論を重ねてきました。

そうした中、高架下エリアの開発コンセプトを『行きたい 住みたい KYOTO 洛西口 ～ヒトとヒトをつなぐ エキはマチの縁側(えんがわ)～』とし、今般、同エリア全体の名称を「TauT（トート）阪急洛西口」と名付けることとしました。あわせて、第1期エリアとして、洛西口駅付近を2018年秋に先行開業することも決定しましたのでお知らせします。

高架下エリアの開発コンセプトや名称、第1期エリアの開発方針・計画概要などは、次ページ以降のとおりです。



## 高架下エリアの開発コンセプトについて

### 行きたい 住みたい KYOTO 洛西口 <sup>えんがわ</sup> ~ヒトとヒトをつなぐ エキはマチの縁側~

駅周辺にお住まいの方々や駅をご利用されるお客様の利便性の向上を図りながら、訪れる人々の交流を促進するエリアとなることを目指し、「地域の魅力を再発見する」「遊びを通じて学ぶ」「新たな文化を共に育む」の3つのコンセプトをもとに高架下エリアのゾーニングを検討しています。地域の魅力を発信するとともに、行きたい街・住みたい街としての魅力を高め、「訪れたい」「新たに住みたい」「将来にわたって住み続けたい」と思っただけのエリアにしたいと考えています。

## 高架下エリアの名称について

### ■高架下エリアの名称

トー ト

# TauT 阪急洛西口

### ■名称に込めた思い

“ヒトとヒトをつなぐ” エリアにしたいという想いを表現しています。「人一人」がカタカナ表記の「トート」とも読めることや、「T」を高架の柱に見立てて、その間で人が「au (あう)」ことを、それぞれデザインでイメージしました。また、英単語の「taught (teach の過去分詞形)」の響きを連想し、“教えあう、学びあう” エリアにしたいという願いも込めています。

## 第1期エリアの開発方針について

本年秋に先行開業する第1期エリアは「地域の魅力を再発見するエリア」と位置付け、洛西口駅の利便性向上につながるサービス業態だけでなく、地元京都で人気の飲食・食物販の店舗も誘致することにしています。それにより、駅を中心に賑わいを創出し、人が集まり交流することで、地域の活性化を図ってまいります。

なお、各店舗の概要は本年夏頃に発表する予定です。

開発エリアの位置図



### 第1期エリアの計画概要について

- 計画地 京都市西京区川島六ノ坪町59-2他
- 敷地面積 約2,838 m<sup>2</sup> (高架下全体の敷地面積は約11,200 m<sup>2</sup>)
- 延床面積 約1,522 m<sup>2</sup>
- 構造・階数 鉄骨造・地上1階
- 用途 物販・食物販・飲食・ATM・サービス・駐輪場等
- 開業予定 2018年秋
- 設計・監理 阪急設計コンサルタント株式会社
- 施工 株式会社中藏
- 工事期間 2018年3月15日 着工～2018年秋 (予定)



洛西口駅（桂駅方面）の東側歩道から見た施設の外観イメージ

#### （ご参考）洛西口～桂駅間プロジェクト

阪急京都線・洛西口駅付近の連続立体交差化事業（鉄道高架化）により、高架下に生み出された総延長約1 km、面積約11,200 m<sup>2</sup>の空間の活用方について検討しているプロジェクトです。立ち上げにあたっては、当社と京都市の間で西京区エリアの活性化や持続的発展に寄与するために相互に協力していくことを確認し、2015年12月に包括的連携協定を締結しました。

（以上）

【ニュースリリース配付先】青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、京都市政記者クラブ、京都経済記者クラブ